

雜 報

人 事

<p>京都帝國大學總長 荒木寅三郎 <small>(三月二十二日)</small></p> <p>岡山醫科大學助教授 筒井徳光 <small>(三月九日)</small></p> <p>陸軍造兵廠名古屋工廠廠員 兼名古屋陸軍兵器支廠廠員 陸軍二等軍醫 菅田 瀟 <small>(三月二十七日)</small></p> <p>昭和四年徵兵事務執行中第三師團附兼勤被仰付 <small>(三月二十七日)</small></p> <p>陸軍三等軍醫正八位 岡本東洋男 <small>(三月三十日)</small></p> <p>陸軍一等看護長 岡本正人 <small>(三月三十日)</small></p> <p>臺灣總督府醫院醫官 島山長作 <small>(三月三十日)</small></p> <p>金澤醫科大學學生主事 兼金澤醫科大學助教授 松本武一郎 <small>(四月一日)</small></p>	<p>平壤衛戍病院附陸軍二等軍醫 得能倫二 <small>(四月一日)</small></p> <p>大阪衛戍病院附陸軍一等軍醫 森定 惠 <small>(三月十三日)</small></p> <p>臺灣總督府臺灣醫學專門學校教授 横川 定 <small>(三月十三日)</small></p> <p>臺灣總督府臺灣醫學專門學校教授 廣畑龍造 <small>(三月十六日)</small></p> <p>陸軍一等軍醫 正木 豊 <small>(四月八日)</small></p> <p>陸軍一等軍醫 川北伊勢吉 <small>(四月八日)</small></p> <p>海軍軍醫中尉 加藤五郎 <small>(四月十五日)</small></p>
---	--

- 荒木寅三郎君 別項の如く京都帝國大學總長を辭せられたる同君は今般京都市上京區吉田神樂岡町八番地に轉居せられたり
- 清水多榮君 昨年歐米に出張せられたる岡山醫科大學教授清水多榮君はシベリアを経て本月一日無事歸朝せられたり
- 安藤守元君 は今般大阪癡狂院を辭し岐阜市外日野村岐阜腦病院々長として治療に従事せられたり
- 菅野大作君 は今般山口縣三田尻弘中病院を辭し大阪市北區絹笠町大阪同生病院に勤務せられたり
- 田中敬三君 は今般兵庫縣立神戸病院内科に勤務せられたり
- 久持義明君 は今般開業を中止し奉天滿洲醫科大學高森内科教室に於て研究に従事せられたり
- 吉田豊太君 は豫て岡山醫科大學柿沼内科教室に於て研究中なりしが今回岡山地方專賣局に勤務せら

れたり

- 多田 繁君 は今般廣島市三川町に於て開業せられたり
- 吉田美壽利君 は岡山醫科大學赤岩外科教室に於て研究し又一昨年獨國に留學し本年初歸朝されしが今般丸龜市通町に於て開業せられたり
- 山縣 是之君 は豫て岡山醫科大學皮膚科泌尿器科教室に於て研究中なりしが今般吳市藏本通七丁目に於て開業せられたり
- 江原猪知郎君 は豫て岡山醫科大學皮膚科泌尿器科教室に勤務し居られしが今般辭職本縣津山市戸川町に於て開業せられたり
- 富永猪佐雄君 は豫て九州帝國大學醫學部第一內科學教室に勤務し居られしが今般辭職佐世保市小佐世保通宮崎町に於て開業せられたり
- 岡田 正矩君 は豫て岡山醫科大學稻田内科に於て研究中なりしが今般明石市人丸町に於て開業せられたり
- 石川 適君 神戸市御崎町鐘淵紡績會社醫局勤務
- 蜂谷 道彦君 岡山醫科大學稻田内科教室勤務
- 大島 松一君 高松市日本赤十字社香川支部病院勤務
- 小田 敬進君 岡山醫科大學泉外科教室勤務
- 河合 郁二君 岡山醫科大學耳鼻咽喉科教室勤務
- 吉田 和男君 岡山醫科大學稻田内科教室勤務
- 玉木 康允君 九州帝國大學醫學部赤岩外科教室勤務
- 藏本 積君 岡山醫科大學柿沼内科教室勤務
- 安井 彌八君 兵庫縣明石郡玉津村西河原に於て開業
- 小林 章二君 岡山醫科大學柿沼内科教室勤務
- 後藤 勇君 長野縣上伊那郡高遠町に於て開業
- 佐藤 秋夫君 岡山醫科大學稻田内科教室勤務
- 佐藤 進六君 姫路市日本赤十字社支部病院勤務
- 齋藤 義次君 岡山醫科大學柿沼内科教室勤務
- 税所 勝英君 京城帝國大學醫學部伊藤内科教室勤務
- 北 義保君 岡山醫科大學産科婦人科教室勤務
- 岸 毅郎君 大阪市北區絹笠町大阪同生病院皮膚科勤務
- 木屋 梓君 岡山醫科大學津田外科教室勤務
- 三木 行治君 岡山醫科大學稻田内科教室勤務
- 三舟 淳夫君 姫路市立北條病院勤務
- 清水 勝君 岡山醫科大學津田外科教室勤務
- 神藤 達男君 京都山科鐘淵紡績會社醫局勤務
- 森 六朗君 姫路市日本赤十字社支部病院勤務

赤松是三郎君 は明治二十二年第三高等中學校醫學部を卒業し暫時郷里に於て開業し居られしが故
長與博士が東京市麴町區内幸町に胃腸病院を開設せらるるや同院に勤務し今日に至りしが過日病を
以て遠逝せられたりと洵に哀悼に堪へず謹みて茲に弔意を表す

◎學位授與決定 古谷滋夫君は論文を慶應義塾大學醫學部に提出し學位を請求し居られしが去月十
一日の教授會を通過し醫學博士の學位を授與することに決定せり其主論文は左の如し

「レントゲン」線の睾丸に對する生物學的作用に就ての知見補遺

「レントゲン」線の卵巢に對する生物學的作用に就ての知見補遺

正 誤

本誌第號(第41年第3號)566頁掲載田丸要槌君論文第6表中容積の下に4.04 ccm とあるは7.04 ccm
の誤につき訂正す。